

2025年度 第2回 CTK 放送番組審議会 議事録

2025年12月22日

10:00～11:30

ケーブルテレビ可児 会議室A

【委員】

委員長 海道 清信 (名城大学 名誉教授)
副委員長 細野 裕子 (中山道案内人倶楽部 前会長)
委員 大脇 慶二 (株式会社サカエ屋 代表取締役)
金子 佳史 (可児青年会議所 直前理事長(2024年度理事長))
中島 唯 (御嵩町総務部総務課秘書広報係 主任)
水野 芙由子 (可児市市政企画部広報情報課広報統計係長)
山田 牧子 (可児市NPO協会職員)

(敬称略、五十音順)

【当社事務局】

谷口 公一 (代表取締役社長)
石川 浩紀 (取締役)
長尾 武彦 (メディアサービス部長)
岸野 直美 (メディアサービス部メディアグループリーダー)
井深 樹 (メディアサービス部メディアグループ) (記録係)

【出席者・欠席者】 出席委員：7人 欠席委員：0人

1. 社長挨拶

2. 議事

(1) 視聴番組についてのご意見・ご感想(番組視聴)

- ① 「そらさんぽ」(可児市広見地区)
- ② ニュース特集「わたしと広見線」
- ③ 「岐阜の宝めぐり」 #12「御嵩町」
- ④ 「記憶の1コマをたどれ！懐かしの映像クイズ」

(2) CTK 11ch・12ch の番組全般についてのご意見・ご感想

3. 報告事項

- (1) 12ch の年始特別編成について
- (2) 「かにみた！」新春特番公開収録のご報告
- (3) 「地域・人の wa プロジェクト」商品開発のご報告
- (4) 「かにみた！」ソング&ダンス「かにみた！HAPPY DAYS！」のご紹介

(5) 番組に対する苦情と対応について

2. 議事

(1) 視聴番組についてのご意見・ご感想

① 「そらさんぽ」(可児市広見地区)

〈視聴ご意見〉

副委員長

もう少し、名所や建物が何かという説明書きがあってもいいと思った。例えば、広見神社の辺りに何かの言い伝えがあるとか、ちょっとしたコメントを頂けたら、よりその地域の歴史を感じるかなと思った。

事務局

一言コメントなどは入れるようにしている。神社の説明もしているが、広見神社はこの地域にあった神社の合祀で、現在の場所に来てからの歴史も浅く、少し複雑。それをどこまで入れようかというのは、確かに今回悩みどころではあった。結果的に、少し簡単にしすぎてしまったかなと反省している。

委員

いろいろな歴史があって、地区ができていると感じた。広見は歴史が詰まった場所だと思った。

委員長

広見小学校では校舎の中をドローンが飛んでいた。すごい技術だと思った。

委員

初めの場所の紹介の時に可児市の地図が出て、星のマークがチカチカするが、よく見たら広見の場所ではないなと思った。地元のため特に気になった。

事務局

正確にしているつもりだが、ずれてしまったかもしれない。
地元の人は特に気になると思うため、なるべく正確に表示する。

<質疑応答>

委員長

人が誰も歩いていなかったが、人がいるところではドローンを飛ばせないなどの規制があるのか。

事務局

基本、人の上を飛ばしてはいけないことになっている。

8月14日というお盆の時期の、朝6時半くらいに撮影したため歩行者が少ない。学校の撮影ができるのが長期休暇期間中のため、撮影はお盆の時期に行った。

委員長

人がいないと、誰もいないまちなのかと見た人に誤解されると嫌だなと思った。

委員

私も何時くらいに撮ったのか気になった。家で夫と一緒に見ていたが、すごくいいと言っていた。ナレーションがなくて音楽が鳴っていて、見ただけで癒される。地区センターをこんなアングルで見たこともなく、すごくいいと思った。

委員長

ナレーションがない方がいいということ？

委員

ない方がいいというわけではないが、ナレーションがある番組が多い中で、このようなものは珍しく、これはこれでいいなと思った。

委員長

5カ所取り上げたのは、市民だけではなく、いろいろな地域の人に見てもらおうという意図もあったのか。どうしてこの5カ所なのか。

事務局

「そらさんぼ」は、何年も放送しているため、ある程度行き尽くしているという事情もあり、またこれは他局とも連携して放送している番組のため、地域の特徴を出せる場所という観点で選んだ。

過去に学校にスポットをあてた時に、CTKエリアでは好評だったため、地域を絞って学校も絡めて紹介しようと思い、今回初めて広見地区で作った。

他についても、公共施設で、ある程度シンボルティックなものはどこかと検討し、

学校・神社、さらに広見地区センターは象徴的な建物という観点で、このチョイスをした。

② ニュース特集「わたしと広見線」

<視聴ご意見>

委員長

今、地域で大きな関心事となっている広見線の話題。

西可児の者からすると、新可児までは広見線で行っても、そこから御嵩まではあまり行かない。御嵩の人たちの思いを伝えるというのは地域として大事な話題だと思っている。

委員

今回は広見線を残したいという方にフィーチャーしているが、なぜ廃線危機に至ったのか、何年前からどれくらい利用者が減ってしまっているのかなどの背景があっても良かったと思う。また、名鉄側の視点があっても良かった。

事務局

広見線の問題自体は、通常のニュースの中でも動きがあるたびに扱っている。そのため、経緯や行政の動きなどは随時お伝えしている。

これは少し別の企画で、広見線に強い思いがある人にフィーチャーした企画になっている。広見線を残したいと思う人たちや、もしかしたら残さなくてよいという人の意見も今後あるかもしれない。

通常の「広見線をどうする」という話はニュースで随時伝えているため、それとは切り離しているが、確かに特集の冒頭にそういうものがあつたほうが普段見ていない人には分かりやすいかもしれない。

委員長

新可児から御嵩までと、新可児から犬山までとは何か違うという意識が出てしまうが、先日ある人に聞いた話では、新可児から犬山までの存続も、それほど万全ではないということだった。そのため、この沿線全体を一体として捉えるというか、ぜひ次は新可児から御嵩と、新可児から犬山というように分けずに、1本の線として捉えてほしいと思った。これからも大きなテーマになってくるため、ケーブルテレビとしてもぜひ力を入れて放送してほしい。

委員

行政としても、1人の町民の声をじっくり聞けるというのはなかなか貴重。いろいろな方に、こういう思いを持った人がいるということを知ってもらえるのもとても良いと思った。また、名鉄広見線の映像とご本人の歌声を一緒に流すという編集も良かった。

<質疑応答>

委員

そもそもニュース特集は、どういった角度から取材する番組なのか。

事務局

若手の制作力向上という目的も兼ね、日々のニュースを取材する中で、自分で見つけてきたネタを独自の目線で深掘りして取材するという趣旨で、特に制限はしていない。社会の話題でも人物でも、どんなものでもいいが、人にしっかり見せられるように、さまざまな目線で多面的に捉えようという指導はしている。

③ 「岐阜の宝めぐり」 #12「御嵩町」

<視聴ご意見>

委員

この番組がとても好き。テロップも「宝探し」という探検のスタイルがすごく出ていて、特に「鬼岩の岩めぐり」は、案内人と種田さんのテンポが良くて分かりやすい。私も昔、他県から来た人に案内した思い出があるため、こうして改めて紹介してもらえると、良さが再確認できるのでいいと思った。

副委員長

私は御嵩町伏見に生まれ育ったため、昔を思い出しながら見た。

穴くぐりも、私が知っているのは5月のみだったが、今回見たら4月から11月までということも新たに発見できた。

私が御嵩町を紹介するとなった時に、あのスポットは頭に浮かんだかなと思いながら、改めて良いところを見つけられた。

委員長

「鬼滅の刃」が流行した時に、聖地巡りで割と若い人たちがたくさん来ていた。昔懐かしいだけでなく、今の若い方の興味にもなると思う。

<質疑応答>

委員

番組の感想なども募集していたが、どんな感想が来たか知りたい。

事務局

岐阜県内9局で放送しているため、鬼岩をそもそも知らなかったという声や、昔おじいちゃんが炭坑で働いていたという声もあった。

また、これは地元の人向けだが「かにみた！」MCの橋本明日可が御嵩町出身ということは知っていても、「呑珍館」の娘さんとは知らなかったというコメントも多く頂いた。

副委員長

私も呑珍館のご主人のことは知っていたが、あすかさんと結び付いていなかった。

事務局

地元の人からも反響があって、そのあたりも楽しんでいただけたと感じた。

④「記憶の1コマをたどれ！懐かしの映像クイズ」

<視聴ご意見>

委員

クイズ形式で、こちらと一緒に考えることができる番組で面白いと思った。

1つ感じたのは、クイズ問題が出されてから、まちの人の声が3人ずつぐらいありヒント①→まちの人の声→ヒント②→まちの人の声…という形で、正解発表までが少し長いと感じた。

事務局

制作の段階から同じような意見があった。やはり自分でも改めて見るとテンポが良くないというのはとても感じた。もう一度、3月に違うお題で同じ番組を放送する予定のため、その際の課題として制作していけたらと思う。

委員

大学生の娘と一緒に見ていたが、花フェスタ'95の出題シーンを見て「昔の人は言葉遣いがきれいだね」と言った。それを聞き、時代によって言葉遣いが変わるのだと、今の子とは違うんだという気づきがあった。また、その時代はスマホどころか携帯電話もほとんど持っていなかったのが、今では考えられない景色で、すごく興味

深かった。面白かった。

委員長

クイズの面白さもあり、当時の社会の状況を感じられる面白さもある。

<質疑応答>

副委員長

レンガ造りの壁のような背景は、タイムスリップのようなイメージで作ったのか。

事務局

クイズというか、迷宮のようなイメージもありこの背景にした。

また、背景を少し動かし、迷宮に入っていくようなイメージで作った。

委員長

30年以上前かもしれないが、タイムトンネルという番組があった。

タイムマシンの中に飛び込むようなイメージは似ていると思った。

副委員長

インタビュー相手について、1問目は可児工業高校だったから高校生を選んだのか。

事務局

1人の方に2～3問出題し、幅広い年代の方からお話を伺って、出てきた答えによってオンエアに乗せる人は変えた。しかし、確かに1問目は高校の話題だったため、高校生に意図的に多めに聞いた。

(2) CTK 11ch・12ch の番組全般についてのご意見・ご感想

特になし

3. 報告事項

(1) 12ch の年始特別編成について

・「かにみた！新春特番」

公開収録はこれで3年目になるが、これを正月特番として、2週にわたって第一部、第二部と内容を変えてお伝えする。

・「可児 Jr. 音楽祭」

既に放送済みのものだが、お正月で家族が集まるということと、保護者の方からも「また放送するのか」など問い合わせがあるため、こちらの時間に再放送として入れた。

・「病院大移動」

CAC という愛知県半田市のケーブルテレビ局が、半田市の大病院が移動するという出来事を追って作った番組が、この東海地域の番組コンテストで優勝したため、地域の頑張っているケーブルテレビで見応えのあるものを皆さんに見てもらおうといいと思い、お正月に入れさせていただいた。

・「可児市成人式 御嵩町二十歳の集い」

「可児市成人式」については今年も生中継で現場から放送。

「まちりぽ！」という、月1回の生中継企画も同時に実施する。成人式の後に会場から出てくる新成人に突撃インタビューというものを去年からやっており、それを今年もやらせていただく。

「御嵩町 二十歳の集い」については、生中継ではないが、収録を行って、可児市の成人式と合わせて1月24日から1週間、式典の様子やインタビューなどを放送する。

(2) 「かにみた！」新春特番公開収録のご報告

12月13日、ラスパ御嵩 1F のラスパコートで、2本撮りで行った。

主な内容は

- ・地域のダンスチームの発表
 - ・可児市の土田出身のマジシャン「つきー」さんのマジックショー など。
- 会場には「つきチル」という追っかけファンの子どもたちも見に来ていた。

このように、地域の方を招きつつ、「かにみた！HAPPY DAYS!」という、「かにみた！」のオリジナルソングをみんなで歌って踊ろうということで紹介させていただいた。

第二部では、去年好評だった「熟年夫婦いらっしやい」の企画を行った。

また、今回、公開収録の出演者募集をさせていただいたところ、なかなか集まらなかったが本番1週間くらい前に手を挙げてくださった団体があった。それが「ビジュアルカスカス」という東濃実業高校の有志のダンスチームだった。この子たちが非常に良いパフォーマンスをしてくれて、このような地域の子たちの発表の場を設けるのはいい

取り組みだと肌で感じた。

他にも、「地域・人の wa プロジェクト」の紹介も、この舞台でさせていただいた。

今年に関連企画で御嵩町の「舢五山茶」を使った商品開発を行い、紹介した。

公開収録の総括としては、会場と一体になり体感型コンテンツとして楽しめた内容だった。

来場者は、のべ 170 人としているが、会場が吹き抜けになっていて、2 階にも椅子があったため、そこからのぞき込んで見ていただいた方もいらっしやった。その方たちを含めると、それ以上いたと思う。

前回の公開収録は可児川苑で行ったため、コンテンツも少し高齢者向けになったが、今回は小さなお子さんからご年配の方までいろいろな方に出演していただいたため、観客も幅広い層が見てくださり、良いアプローチができたと思う。

(3) 「地域・人の wa プロジェクト」商品開発のご報告

以前「あすかのツナガレストラン」で、舢五山茶を作っている中学生たちの茶摘みにお邪魔して、そこで「舢五山茶と CTK がタッグを組んで何か町のためにできないか」

「舢五山茶をもっと知ってもらうには何ができるか」ということで、「番組をきっかけに新たな名物を作って発信していこう」と取り組んできた。

そして出来上がったのが、まず「極生プリン専門店 湊」さんのプリン。抹茶のような粉茶を使うのではなく、茶葉から入れたお茶で作っていて、下がミルクとお茶のプリン、上がお茶のゼリーの層になっている。

もう 1 つが、「こなもん屋」さんという、たい焼きなどを売っているお店で、コラボメニューを考え、実際にお店で販売していただいた。10、11、12 月と 3 カ月間、期間限定で月ごとに商品を変えて販売している。それぞれ評判が良く、SNS にあげてくださった方もいらっしやった。

また湊さんのプリンは、番組をご覧になった方が、販売前から「買いに来ました」と言うほどの反響だった。こちらは 11 月下旬からの販売になっている。

(4) 「かにみた！」ソング&ダンス「かにみた！HAPPY DAYS！」のご紹介

「かにみた！」をもっと PR したいという思いで「かにみた！」の曲とダンスを作った。そのお披露目を公開収録でさせていただいた。

歌詞については、市内・町内の中学校にまず伺って、生徒会の方と一緒に考えた。

御嵩町では、エコビアガーデンと伏見の夏まつりでも、地域の方に「こんな歌詞が入るといいな」というように、まちの特徴を表す言葉を集めた。可児市では「アーラまち

元気部」の子たちと、作詞・作曲を担当していただいた美濃加茂市出身のシンガーソングライターの田中慈人さんと一緒に話し合って考えた。

振付は可児市などでダンススクールをされている TONBO さんというインストラクターの方に考えていただいた。歌詞カードも作り、公開収録当日は、ダンスが踊れない方に向けて歌詞カードを配布した。ご年配の方も、手だけ振付を真似してくださる人もたくさんいらっしゃった。

歌詞に関しては、1 番に可児市の良いところ、2 番に御嵩の良いところを詰めた。可児市だと「バラ」「明智光秀」「アーラ」など、御嵩町は「みたけのええもん」「中山道」「赤電」などを入れた。これらも、地域の人から出た意見をもとに、可児市の人から聞いたなら「可児市の曲だ」、御嵩町の人から聞いたなら「御嵩町の曲だ」と思ってもらえるような曲を目指して作った。サビは「かにみた！」についての歌詞にした。

作詞・作曲の田中慈人さんは、以前も弊社の番組の「学校ガチ訪問」でリポーターをしてくださっていたり、FM ならで番組を持ったりされていて、地域にゆかりのある方。美濃加茂市で盆踊りなどで踊られている曲を作った方でもあるため、いつかこの曲も可児市の盆踊りなどで踊ってもらいたいという野望もありつつ、作らせていただいた。

ダンスを作ってくださった TONBO さんは可児市の方で、可児 UNIC や市内のダンスチームなどを指導している。元々は桜ヶ丘の新体操チームのメンバーで、そこからダンスの道に進まれたという地元ゆかりの方。このように、いずれも地域の方に作っていただいた。

公開収録では、田中慈人さんに歌っていただき、TONBO さんのチームの子どもたちがダンスを踊ってくれた。

(5) 番組に対する苦情と対応について

前回の番組審議会以降、番組に対する苦情はなかった。

以上